



長野県難聴児支援センター ニュースレター

平成28年
第1号

長野県保健・疾病対策課

信州大学医学部附属病院耳鼻咽喉科



長野県難聴児支援センターは、きこえに不安がある赤ちゃん、幼児、児童すべての子ども、保護者、関係者支援の拠点になることを目指し、平成19年6月に開設されました。このセンターは、信州大学医学部附属病院に隣接した県松本旭町庁舎内にあり、大学病院とは渡り廊下でつながっています。

スタッフはセンター長（信州大学医学部附属病院耳鼻咽喉科長）、小児難聴外来医師、言語聴覚士、難聴児支援療育員（ろう学校教諭）で構成されています。

このニュースレターを通して、新生児聴覚スクリーニングにかかわる情報やきこえ・ことばにかかわる情報、各種ご案内をお届けしたいと思います。



「ファミリーセミナー」開催

7月9日（土）支援センター横の多目的室にて第2回ファミリーセミナーを開催しました。

今回は、信州大学附属病院で小児難聴を主に診ている宮川麻衣子先生に講師をお願いしました。

内容は、「耳のしくみ」「聴力検査」「難聴の原因」「補聴器や人工内耳」等です。

普段、診察室で聞いてはいるけど詳しくは知らなかったお話を学ぶことができました。



参加した方は、小さな赤ちゃんを抱えたお父さん、お母さん、その子どもを一緒に見守るおばあさん、きこえやことばを支える言語聴覚士さんやろう学校職員など合計16名。宮川先生にはその場での質問にも答えていただきながら「オーディオグラムから見る我が子のきこえ方」「子どもにとって音楽はどうきこえているか」等、わかりやすくお聞きすることができました。

この会の名称をファミリーセミナーとしているとおり、「平日はなかなか一緒に病院に行けなくて…」「お医者さんに説明受けたことを家族に伝えるのはなかなか難しく…」という声から、土曜日の午後で開催しています。子どもを支える多くの皆さんにご参加いただき、あらためて「子どもを育てる環境の大切さ」と「ご家族の思い」を感じることができました。

第3回は、右記の日程で計画しています。

みなさまのご参加をお待ちしております。

（詳細はHPにてご案内いたします）

第3回ファミリーセミナー

日時；8月6日（土） 午後3時～

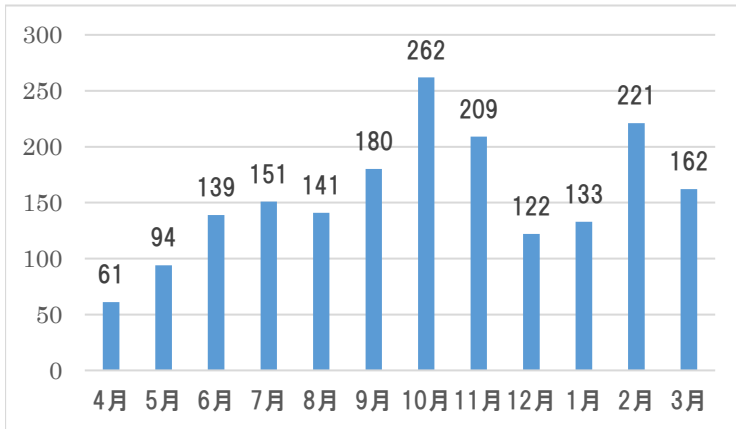
講師；北野 庸子先生

内容；「子育て」「コミュニケーション」

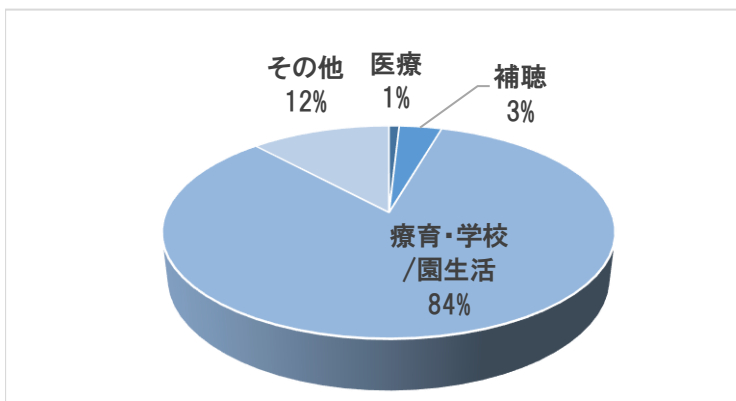


平成 27 年度の活動実績より

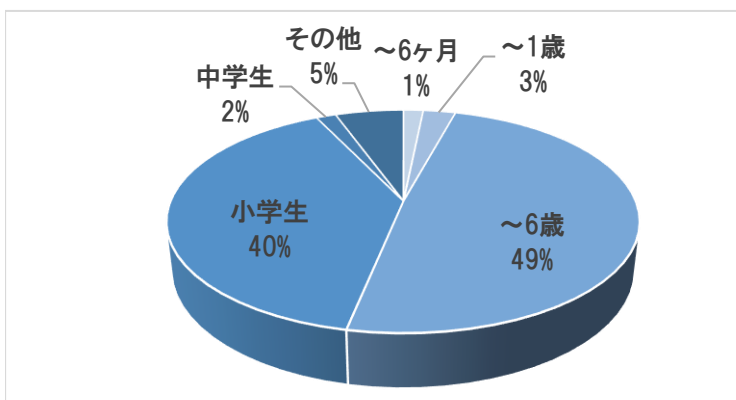
月別相談件数



相談内容



相談対象の年齢



昨年一年間、当センターに寄せられた相談等対応件数は、延べ 1875 件、月平均 156 件となっています。相談方法は電話での相談とともに、園や学校の様子を見せていただく訪問相談、病院受診などに同伴する付添相談が多く寄せられました。家庭を離れた集団活動での配慮を関係者とともに考えること、また、診察室での説明を一緒にお聞きしながら不明な点や具体的支援方法を考えることなどがこのセンターの大きな役割になっています。

お寄せいただく相談内容は、「療育・園や学校生活」に関するものが最も多く、これはセンター開設以来変わらぬ傾向です。

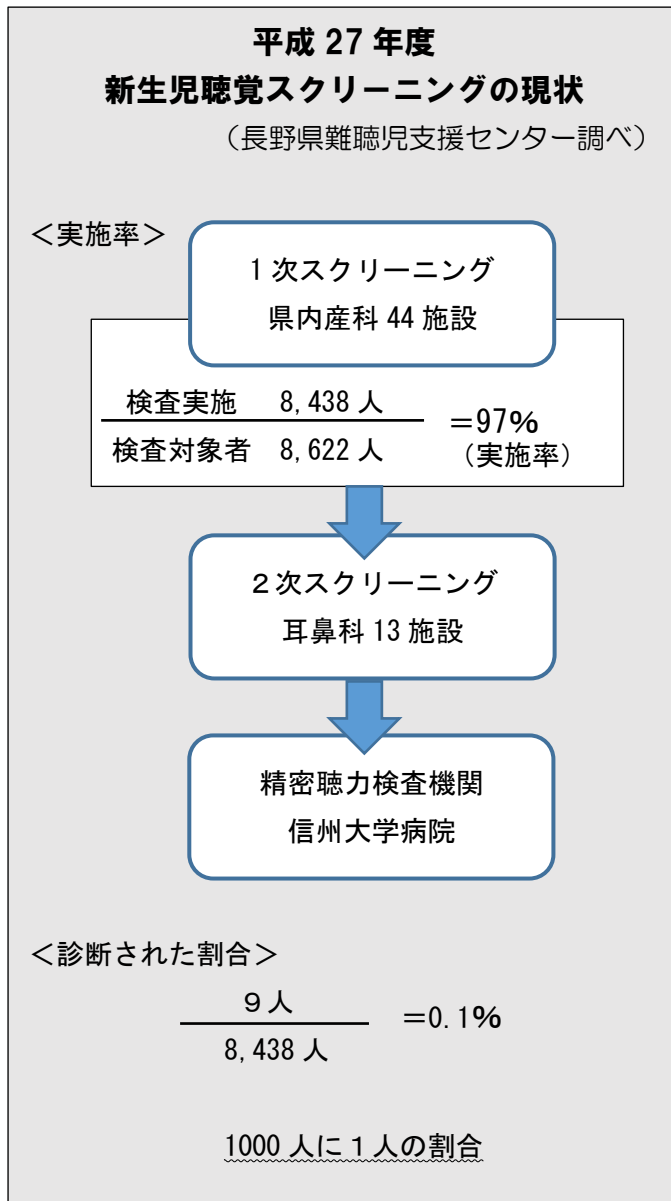
「聞こえに関する配慮はどうすればよいか」「ことばを育てるための働きかけはどうあったらよいか」等、保護者と教育機関双方からの相談が多く寄せられ、子どもの姿を通して一緒に考えることができました。また、補聴器を付け始めたお子さんへの対応の他、各種学習会や研修会の依頼もいただきました。

相談をお受けする対象は、2 歳～6 歳までの幼児と小学生を対象とした相談が多く寄せられました。集団での言語環境や音環境の中、どのように情報をつかむか、授業を理解していくか。支援会議を通して関係者が知恵を寄せ合うことができました。また、就学を控え「どこで学ぶか。どんな力をつけるか」という悩みは大きく、また、「担任が変わったので改めて配慮点などをみんなで学びたい」という関係者からの依頼も多く寄せられました。

今後も、子どもを中心にしたニーズに応えられるよう活動していきたいと思っております。



新生児聴覚スクリーニングのまとめ(平成27年度)



昨年度、当センターに報告のあった新生児聴覚スクリーニング件数は以下の通り。

- ◇検査対象者；8,622 人
- ◇検査実施者；8,438 人
- ◇未実施者数； 184 人
- ◇2次スク数； 35 人
- ◇確定診断数； 9人

1次スクリーニングで「要再検」となってから、2次スクリーニング、信大病院での精密検査まで、おうちの方は「不安」の日々を過ごされたとお聞きします。寝ても覚めても、ちょっとした瞬間に「きこえ」のことが思い出され、ネットで情報を調べたり、子どもの行く末を案じたり。「よくなりますように」と赤ちゃんの耳を毎晩さすり続けたというお母さんのお話もお聞きしました。この「不安な間」を埋めること。これがセンターの大きな役割です。

そして、補聴器など最新で最善の医療技術によって「明日への一歩」を力強く歩み始めるご家族のお手伝いをしていきます。

新生児聴覚スクリーニングを実施している各機関の皆様と連携を図り、早期発見・早期対応に向けた取り組みをしていきたいと思ひます。



難聴児支援センターの活動

個別支援	電話、来所、訪問、メールによる相談、付添受診、連絡調整、療育プログラムの調整
関係機関との連携	支援体制作り、ケース会の開催・出席、療育チームのコーディネート、出張相談、保護者の仲間作り
資質向上・啓発普及	研修会の開催、ファミリーセミナーの開催(月1回4回シリーズ)、ニュースレターの発行
県内難聴児の把握	検査実施状況の把握、新生児聴覚スクリーニング機関への訪問





難聴児支援センター運営会議

6月10日（金） 旭町庁舎2階研修室にて運営会議が開かれました。参加者は、難聴児支援センター長はじめ信大医学部産科婦人科医師、耳鼻科医師、特別支援教育課、ろう学校長、県保健・疾病対策課等 各役員の方々。

昨年度活動報告や今年度活動計画の他、「支援センターとしての今後の役割や課題」「医療と教育と行政の連携」「里帰り出産についてのフォロー体制」等 具体的な視点からの話し合いが行われました。



みみよい情報



※「ミミッキー」は難聴児支援センターのマスコットキャラクターです



◇「てあそび歌」「あそび歌」募集

いろいろ園を訪問させていただくと、それぞれの教室で楽しい「てあそび歌」が歌われている場面をよく見ます。リズムに乗って楽しみながらことばを発するっていいですね。伝統的なてあそび歌もあれば、現代風のオリジナルてあそび歌もある。

各園の歌の財産を共有できたら！との願いを受け、子どもたちが大好きな「てあそび歌」がありましたら、センターまでお寄せください。

◇夏の汗対策～思い切り遊んだら「乾燥」を忘れずに～

いよいよ夏本番！水遊びに虫探しとたくさんの冒険や発見が子どもたちを待っていますね。この時期気を付けたいのが「汗による補聴器や人工内耳の故障」です。楽しく遊んだあとは、タオルでよく汗を拭いて、夜は機器を「乾燥ケース」にしっかりと納めましょう



長野県難聴児支援センター

TEL:0263-34-6588

FAX:0263-34-6589

Mail:mimi@shinshu-u.ac.jp

住所：松本市旭 2-11-30 松本旭町庁舎 2 階

支援療育員；丸山秀樹

※ご相談、お問い合わせ等
お気軽にご連絡ください

